

1. 調査報告概要表

作成日 平成19年 11月12日

【評価実施概要】

事業所番号	1275000097
法人名	有限会社 たすけあい
事業所名	グループホーム たすけあい
所在地	千葉県香取郡栗源町岩部1095-1 (電話) 0478-75-1056

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8
訪問調査日	2007/11/6

【情報提供票より】(平成19年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 10月 1日
ユニット数	1ユニット 利用定員数計 9人
職員数	12人 常勤 9人, 非常勤 3人, 常勤換算 9.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り 1階建ての1階部分
------	----------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	46,500 円	その他の経費(月額)	24,500 円	
敷金	有() 円	○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	①(200,000円) 無	有りの場合 償却の有無	①/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり		1,300円		

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	2名	要介護2	3名		
要介護3	4名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 79.6歳	最低	75歳	最高	86歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	千葉県立佐原病院・菅井歯科医院・鶴田医院
---------	----------------------

株式会社日本ビジネスシステム

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然に囲まれた静かな環境の中に「グループホームたすけあい」がある。施設の周囲には広い畑があり、入居者と職員が共同で季節の作物や花を栽培している。収穫した作物等は普段の食事に生かされていると共に、地域のグループホームや老人保健施設等にも配っており、施設間の交流にも生かされている。以前は学童保育も同時に行っていたこともあり、地域交流及び共同生活を、より活性化する姿勢がうかがえる。広い中庭で歩行訓練やレクリエーション等を行っており、入居者の気分転換と健康維持に有効活用されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価結果を踏まえて確実に業務を改善しており、よりよい施設づくりに努めている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員全員で自己評価を行っており、現状においての改善点を認識すると共に外部評価の意義を理解している。施設運営に対する気づきを大切にして、サービスの質の向上に生かしている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 地域の関係者を構成員として定期的に会議を開催している。入居者の家族も積極的に出席しており、会議の中では施設の活動報告や関係者による意見交換が行われ、運営やサービスの質の向上に役立っている。また、市と共同のケア会議や介護支援ネットワーク会議に出席しており、運営に関する相談・勉強会・市内のグループホームの情報交換等を行っている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 毎月、入居者の身体状況及び生活状況を文書で家族に報告している。家族の来訪時には状況報告をすると共に、管理者が1対1で意見等を聴取している。あがった意見等については全職員に周知すると共に、カンファレンスで必ず検討し業務の改善を図っている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域行事の参加や地域の方々及びボランティアとの交流を積極的に行っており、共に行き来する関係を築いている。また、季刊誌を地域に配布し、施設の地域理解と交流促進に努めている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者の意思尊重と地域交流を主眼に独自の理念をつくりあげており、地域に溶け込んだ共同生活を目指している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所内に理念を掲示すると共にミーティング等で随時確認し共通理解を図っている。また、毎月のカンファレンスでは理念を中心に個別ケアを検討している。行事を企画するときにも理念を意識している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域行事の参加や地域の方々及びボランティアとの交流を積極的に行っており、共に行き来する関係を築いている。季刊誌である「たすけあい」を年4回発行し、入居者の家族や地域の方々に配布してグループホームでの活動を伝えている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価に取り組み、現状における改善点を認識すると共にサービス向上に活用している。また、前回の外部評価結果を踏まえて業務の改善を確実に実施している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市の職員・地域の民生委員・家族・職員等を構成員として半年に1回程度会議を開催している。特に家族が積極的であり、多いときで8割近い出席が確認できる。議題は活動報告や意見交換が中心であり、意見や要望を確認しながら運営に役立てている。昼食会を交えての会議も行っており、参加しやすい状況を工夫することにより、地域とのかかわりを促進している。		

【千葉県】GHたすけあい

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	2ヶ月に1回の栗源ケア会議に出席しており、事業所の不安や問題点について相談したり勉強会を行っている。また、香取市介護支援ネットワーク会議にも出席しており、市内のグループホームの状況報告や情報交換を行っている。グループホーム入居の空き状況を相互に把握し、相談があった場合は相互に紹介をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、入居者の身体状況及び生活状況を文書で報告している。各入居者の担当者が中心となって作成しており、体重・血圧・受診の記録もしっかり記入されていると共に、人事報告等も必ず記入している。項目ごとに簡潔に作成されており、とても読みやすい報告書である。また、家族の来訪時にも随時状況報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に管理者が1対1で意見等を聴取している。あがった意見等については全職員に周知すると共に、カンファレンスで必ず検討し業務の改善を図っている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入退職については毎月の報告書で家族に伝えている。入居者には退職のことはあえて伝えず、聞かれた場合のみ説明している。入職については入居者に挨拶・紹介をしっかり行い、慣れた職員と一緒に対応することにより短期間で馴染みの関係を築いている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員から希望を聞いた上で、毎月のカンファレンス時に勉強会を行っている。また、外部研修も積極的に参加しており、参加の都度、参加者は他の職員に報告を行い情報を共有している。研修で得た知識や情報を業務に生かし、サービスの向上を図っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内にある11のグループホームで連絡会を構成し、定期的に交流を行っている。情報交換や勉強会を通して、相互のサービスの質の向上につなげている。また、相互の施設を連絡会の会場としており、見学会を兼ねた交流となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>事前見学を通して施設の雰囲気を感じていただくと共に訪問面接及び入居説明をしっかり行い、入居に対する本人の了承を得ている。体験入居を実施しており、1日から2週間の体験期間を設けている。また、毎月数日ずつ体験入居を行い、スムーズに入居したケースもある。入居後は本人の希望にそって自由に過ごしてもらい、施設の生活に慣れてもらっている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>1日の過ごし方は特に決めず、本人の要望に耳を傾けその人ペースで過ごしていただいている。本人の得意分野を生かし、食事作りや畑作業等を共同で行っている。共同作業や共同生活を通してお互いを支えあう関係ができていると共に職員の学びも大きい。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々のかかわりの中で会話を多く持ち、入居者の意向の把握に努めている。また、ケア記録や日誌等を活用すると共に日々の気づきをメモ書きで回覧し、職員間で情報の共有を図っている。意向の把握が困難な場合は、家族と相談しながら対応を検討している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>その人らしく生活が継続できるように本人の意向も含め、家族・計画作成担当者・管理者・部屋の担当者で相談しながら介護計画を作成している。</p>		<p>職員全員で意見交換やカンファレンスを行い、検討及び計画内容の共有化を図り、より有効な計画作りにつなげていただくことを望みます。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的にあセスメントを行い、本人の状態を把握しながら介護計画の見直しを行っている。また、状態が変化した場合に家族と相談しながら随時見直しを行い、実情に応じたケアにつなげている。</p>		

【千葉県】GHたすけあい

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	看護職員を配置し医療連携体制の確保と安心したサービス提供に努めている。福祉移送の事業が併設されており、必要に応じて介護タクシーを利用しながら円滑な支援を行っている。入居者が入院した場合は衣類の洗濯等の支援を行い、家族の代わりに役目を果たしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望により、かかりつけ医を決めている。家族同行の受診ができない場合は職員が同行し受診の支援を行っている。受診後は通院日誌に受診の事由・内容・結果をしっかりと記録しており、家族にも文書で報告している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	特に方針の取り決めは行っていないが、看取りについては当然の支援と考えている。終末期のケアについては職員全員が対応を共有すると共に24時間の看護体制をとって行っている。		重度化や終末期の対応に向けた事業所の方針を確立し、関係者全員で最大の支援ができるような体制作りをしていただくことを望みます。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人書類等の保管は適切になされており、情報は保護されている。個人の対応に関する気づきや伝達は、入居者が見えないところで行っており、尊厳とプライバシーに対する配慮を行っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には本人のペースで過ごしてもらっている。職員が強要せず、本人の希望に応じて掃除・食事作り・散歩・畑仕事・レクリエーション等を行っている。		

【千葉県】GHたすけあい

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の希望を踏まえて栄養士と相談しながら献立を作成している。食事作りは入居者全員が参加し職員と共同で行い、食事の楽しみを共有している。また、後片付けも共同で行っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望やその日の気分・体調に応じて実施している。希望があれば入浴時に髪染めも行っている。入浴を嫌がる入居者に対しては時間や日を変えて言葉かけを行い、実施につなげている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の希望や能力に応じて掃除・食事作り・畑仕事・レクリエーション等を共同で行い充実した日々をおくっている。特に畑仕事については農業経験のある方を中心に積極的に行っている。収穫した作物を食材に使用することで、食への楽しみが広がっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の希望や天候に応じて、散歩を実施している。また、外出会も定期的に行っており、食事や遠方へのドライブなどを楽しんでいる。今後は、家族を含めた旅行の実施も検討している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間を除いて玄関の鍵はかけておらず自由な暮らしを支援している。玄関にはチャイムが設置しており、職員の目が届くようになっている。居室の鍵は入居者の意思で自由にかけられるが、閉じこもる方はいない。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力により、避難訓練及び通報訓練を定期的の実施しており、地域の方々にも参加していただいている。運営推進会議の開催により、災害時における地域との協力体制も確立している。		災害の発生に備えて非常用の食料や防災用品を常備し、万全な災害対策を構築していただくことを望みます。

【千葉県】GHたすけあい

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>栄養士のアドバイスにより、食事の栄養バランスに配慮している。本人の好みや能力に応じて適切な食事提供がなされており、ほとんどの入居者が全量摂取している。食事摂取に関する記録も整備しており、摂取量が少ない場合は必ず原因を確認し、おやつや栄養ドリンクでの栄養補給をするなど適切な支援をしている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>天窓の設置により採光がよく明るい共用空間になっている。一部のテーブルはテーブル式のコタツを用いており、季節に応じて対応できるようになっている。トイレはスライド式の3枚扉を使用しており、入口が広く使用する方への配慮がなされている。敷地内の庭も広くきれいに整備されており、歩行練習・ゲートボール・運動会などで有効活用されている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人の希望に応じて、それぞれの好みや馴染みのものが持ち込まれていおり、居心地よく過ごせるようになっている。畳を敷くことも可能であり、簡易スロープの使用により転倒を防止している。各居室のドアには鍵が設置しており、自由に施錠できるようになっておりプライバシーも確保されている。</p>		